

青森山田 薄氷26連覇

全国高校サッカー

青森県大会2次予選

第101回全国高校サッカー選手権青森県大会2次予選最終日は6日、青森市カクレケルクラブアスレチックスタジアムで決勝が行われ、前年度全国優勝の青森山田が延長の末、八学野西を2-1で下し、26年連続優勝を飾った。青森山田は全国大会（12月26日）来年1月9日・首都圏）に出場する。（福田駿 加藤弘也）

延長後半、劇的V弾

主将「執念が上回った」

ハイライト

ピッチに倒れ込む選手も雄たけびを上げるベンチ。試合終了直後の様子が、

厳しい「頂上決戦」だった情を浮かべた。ことを物語っていた。前回王者・青森山田は、延長の末に26連覇を達成。多岐尚が先制ゴール。その後も、好機をつくり、前半に日本代表の強さをサイド攻撃で、それでも、伝統のエース「ナンバー10」を背負う小

決勝

青森山田	2	1	八学野西
前10分	【青】	1	【八】
後15分	【青】	1	【八】
延長8分	【青】	0	【八】

交代【青】後16分=小野0（武田）、後19分=川原1（高良）、後29分=多岐尚0（小柳）、延長前0分=中山0（芝田）、延長9分=櫻井0（小湊）【八】後0分=長谷川0（池田）、後14分=千原0（山崎）、後31分=田中0（小向）、後35分=成田0（鳥谷部）、延長10分=山端0（村上）

【評】青森山田は前半10分、クロスボールを三橋が頭で押し込んで先制。その後もサイド攻撃などで主導権を握った。同点の延長後半には、スルーパスで抜け出した小湊が勝ち越しゴールを決めた。八学野西は後半15分に高木が直接FKを決めて同点に追い付いたが、延長で力尽きた。

薄氷王者の窮地を救った。PK戦が目前に迫る中、延長後半、スルーパスを抜け出し、「絶対に俺が決める」という気持ちだったと相手DFのチェックをもとにもせず右足を振り抜き、劇的な勝ち越し弾。J2町田の監督就任に伴い、全国大会では総監督としてサポート役に回る千原の黒田



【青森山田-八学野西】後半、八学野西は高木和（左から3人目）らが懸命に守る

野西 王者に肉薄

○…八学野西が6年連続同カードとなった決勝で、王者に肉薄した。1点を追う後半、直接FKを決めて試合を振り出しに戻した高木和（2年）は「もういつでも倒せる時が来ている」と「シャイアントキリング」に手応えをつかんでいたが、最後は相手の底力に屈した。今夏の青森県高校総体決勝は0-3で完敗した相

手。この日は試合開始10分で早々と先制されたが、イレブンは気落ちしていなかった。「高校総体は後半だけで3失点。（前半）1点で終わればチャンスは来ると話していた」と布施颯大主将。GK西野晴徹のファインセーブや集中力の高い守備陣のシュートブロックで何度も窮地をしのぎ、好機をうかがった。

高木、後半同点弾

「攻撃時間を長くすること」を課題にあげて臨んだ八学野西。後半15分、相手ペナルティーエリア付近でFKを獲得し、高木がゴール右隅に突き刺した。「狙い通り」。相手GKが動けないほどのシュートだった。延長に持ち込んだものの、後半に失点し、3年ぶりのPK戦にはつなげられなかった。それでも、三上晃監督は「一人一人があらゆる部分でタフだった。持てる力を出し切った」と激闘を終えた教え子たちをねぎらっていた。